

奈良県地域職業能力開発促進協議会
ワーキンググループにおける
訓練効果の把握及び検証について

奈良県地域職業能力開発促進協議会 ワーキンググループの開催状況等について

1. 検証・改善を行う訓練分野

介護分野	委託訓練	応募倍率は84.0%、就職率が97.7%
	求職者支援訓練	応募倍率は67.5%、就職率が83.6% (従前の就職率93.0%)

※5年度実績を記載

2. ヒアリング実施状況

- (1) ヒアリング実施時期 7～9月
- (2) ヒアリング実施者 奈良労働局、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構奈良支部
- (3) ヒアリング先
 - ①職業訓練修了者 3人 ※全て職業訓練コースの内容に関連した業務への就職
 - ②職業訓練修了者採用企業 3社 ※採用企業は全て奈良県
 - ③職業訓練実施機関 3機関

公的職業訓練効果検証ワーキンググループによるヒアリング結果（職業訓練修了者）①

受講動機等

Q1. 職業訓練を知った・受講したきっかけは

- ハローワークの相談窓口の介護ブースの存在が大きかった。自分の親も介護が必要になっていたこともあり、興味をもった。初めは実務者研修受講を考えていたが、担当職員に初任者研修からの方が良いと勧めてもらった。
- ハローワーク内のリーフレット等で知った。就職が有利になると思い、新たなスキル・技能を身につけたかった。初任者研修は持っているが、働きながら介護福祉士の資格を取るのは難しいので、職業訓練を受講することにした。
- ハローワークの説明会に参加した時に訓練のことを知った。新たな職種に挑戦するために基礎知識を身につけたかった。



結果・検討課題等

ハローワーク職員の勧めやリーフレット等、幅広いきっかけがあった。未経験やブランクのある職種への再就職を目指して受講した方がいた。

ハローワークにおける適切な職業訓練コースへのあっせんの強化と併せて、職業訓練受講を必要とする潜在的な求職者が存在するため、ハローワークを利用していない層にも更に幅広く制度周知を行う必要がある。

①②

就職

Q2. 現在の企業に就職したきっかけ・経路は

- ハローワーク 3名（うち1名は職業訓練の講師経由）



結果・検討課題等

全てハローワークの紹介であるが、特に介護は人手不足分野であるため、引き続きハローワークにおける就職支援の強化を図ることが必要。③

訓練受講内容等

Q3. 職業訓練を受講して良かった点は

- 再就職できた。
- 講師陣の知識量や技術、人柄、学ぶ事が多く、自分で考える力がついた。
- 前職場を体調不良が理由で退職したが、この期間に体力の回復をした。
- 初めての職種だったので、ためになった。
- 新たなスキル（技能）が身につき、職業訓練を受講して自信がついた。
- 資格を取得することができた。自分自身の自己PRや価値観等の整理ができた。
- 授業での発表等、人前で伝えたいことを落ちついて話せるようになった。
- やはり、本で学んだことと現場は違うが、基本的な知識を教えて貰っていたことは良かった。
- 知識実技全般（からだ 病気 制度）、現在の職場は途中障がいの方もおられるので、病気、福祉用具、衣服脱着、学んだことが活かせる。
- 介護の基礎知識をしっかりと習得できた。
- 就職後、職業訓練内容や就職支援カリキュラム全てが役に立っている。現在の職場では使わないが、痰吸引、オムツ交換等、利用者さんにいずれ関係してくる。知っておくことでイメージができる。



結果・検討課題等

総じて職業訓練修了生からの評価は非常に高かった。

特に本で学んだことと現場は違うが、基礎知識をしっかりと習得できたことが、職業訓練終了生の不安解消に繋がったようである。

また、体調不良が理由で退職した職業訓練終了生が、職業訓練期間中に体力の回復を図り、再就職に臨めたことは、今までにない新しい意見だった。

今後も職業訓練修了者の声を求職者に伝えていくことにより、定員充足率の更なる向上につながるのではないかと。④

その他

Q4. その他職業訓練全般について

- いつも同じハローワークの職員が担当してくれて、親身になって相談に乗ってくれた。
- 一緒に訓練を受けたメンバーは8人。全員が介護に興味があり、再就職を目指す真面目な人ばかりで、給付金目当てのような人はいなかった。
- ハローワークの担当者が親身に対応してくれて助かった。また、資格取得についても励ましてくれて嬉しかった。（転職の都度、良くしてくれて、面接のアドバイス、声かけもありがたかった。）
- 同じクラスの受講生同士、仲が良くて触発を受けた。
- 現在も受講生や先生とグループラインで繋がっており、資格や講習などの情報を得ている。
- クラスの雰囲気も良く、情報共有をしながら学ぶことができた。



結果・検討課題等

同じ目的を持つ者同士で情報共有し、切磋琢磨している様子が見られた。

また、職業訓練終了後も資格や講習などの情報交換を行うなど、職業訓練受講生同士の交流が、職業訓練修了者の今後の励みになっている。

職業訓練修了者の声を求職者に伝えていくことにより、定員充足率の更なる向上及び再就職促進、職場定着へとつながるのではないかと。⑤

各種給付金目当ての職業訓練受講を防止するため、正しい職業訓練受講中の各種給付金受給の説明が引き続き必要である。⑥

職業訓練修了者の希望等を職業訓練実施機関へ伝えることで、カリキュラムの更なる充実を図ることができる。⑦

Q5. 職業訓練を受講しようかどうか迷っている人へ

- 就職後、職業訓練内容や就職支援カリキュラムのすべてが役立っている。自分はハローワークで初任者研修からの受講を勧めてもらえたことが非常に良かったと思っているので、他業種から新たに介護分野での就職を目指す人には、まず初任者研修を勧める。
- 学ぶ機会をいただいて、本当に感謝している。職業訓練校で学んだ事を忘れたくないが、使わないと思えなくなる。また、情報や制度はどんどん新しくなる。「自分から求めて勉強、アップデートしてね」と先生方から言われた。日々の生活でいっぱいだが、短時間でも約束を守って（思い出して）化石にならないようにしたい。前職も同じ介護職（支援員）に就いていたが、職業訓練校に行き、資格を取得したので、現在は知識、理論がわかるようになり、自然と仕事を進めることができるようになった。
- クラスの雰囲気良かったこともあり、恵まれた環境で必要な知識や技術を他の受講生と頑張っ学ぶことができた。また、職業訓練受講中に職場見学があり、実際の現場の様子を見て、とても参考になった。施設の雰囲気が分かり、ここで働きたいという気持ちになった。ハローワークで求人が出ていること知り、応募した結果、採用してもらった。職業訓練を受講し、再就職ができて、自分自身のためになったので感謝している。

職業訓練受講修了者の生の声を届けていくことが、受講を迷っている求職者の背中を押す効果があると思われる。現在、昨年度に引き続き、職業訓練修了者の声を記載したリーフレットを作成して周知を行っており、今後も内容の更新、充実を図りながら周知を行っていく必要がある。

公的職業訓練効果検証ワーキンググループによるヒアリング結果（採用企業）①

認知

Q1. 職業訓練についてどの程度ご存じですか

- グループ企業内に、以前から職業訓練後に就職して働き続けている人が多くいるので、熟知している。
- 職業訓練に介護などの科目があることは、ある程度は知っていた。
- 職業訓練の授業内で、職場見学先として来て貰っていて、ある程度知っている。



結果・検討課題等

介護分野においては、特定の分野であるため、関係団体に職業訓練修了者が勤務しているなど、職業訓練への一定の認識があるものの、まだまだ認知が進んでいないように見受けられる。

職業訓練について、幅広い企業にも認知して貰うことが必要。⑧

採用

Q2. 職業訓練修了者であったことは、採用選考に影響がありましたか

- 大いに影響があった。一定期間、職業訓練を受講する中で、一時的な面接だけでは見えにくいような、介護職の向き不向きや意欲、まじめさなどの人間性も見える。
- 多少影響はあった。職業訓練内容が事業内容に合っていたので採用した。職業訓練で介護について勉強していること、それを活かして働くことを考えていることは、仕事に対して前向きな方であると判断した。また、基礎知識を持っていると信用度が上がり、さらに仕事を教えやすいと考えた。
- 影響はない。採用した理由は、本人の人柄が良かったから。しかし、基本的な知識や技術を身につけているため、介護職として直ぐに仕事ができる人と思って安心できる。



結果・検討課題等

職業訓練受講が採用に影響している状況が見られた。

しかし、企業にとって最終的に採用に至る理由として、職業訓練修了者の人柄を重視しており、その人柄には、就職の前に職業訓練を受けるなど前向きに勉強している人物だと評価している。

これら評価している点も含め、採用企業の声を求職者、求人者の双方に伝えることで、定員充足率や就職率の向上に結び付くのではないかと。⑨

スキル

Q3.職業訓練で習得が望ましいスキル・技能などがありますか

- そもそも短い職業訓練期間で詰め込めるものではなく、現場に入ってからOJTで習得していくものと理解している。職業訓練では講義内容の捉え方や、質問してくるか（わからないことを質問できるか）などの姿勢が大事だと思っている。
- 介護福祉士の資格を取得していることが一番望ましい。業務を行う上で大変メリットがある。当該社員（職業訓練修了者）は、仕事をしながら経験を積んで、資格を取得しているので、一番良い状況である。
- 介護の仕事で業務内容などを記録するので、最低限のパソコンスキルが必要になる。介護職にもデジタル化が来ており、業務を進めていく上でパソコンスキルがあるとメリットになる。



結果・検討課題等

職業訓練の最終は、資格取得が望ましいことではあるが、現場での経験やOJTで資格取得してもらえば良く、それよりも職業訓練の受講姿勢が大切との意見や今後の介護業界でもデジタル化が進むことにより、パソコンスキルの習得も必要になってくることが分かった。

職業訓練実施機関へ採用企業のニーズを伝えていくことが重要。

⑩

その他

Q4.職業訓練に関するその他の意見・要望等

- 新しい事業所に慣れるためのマインド面の訓練。過去に別の事業所で介護職に従事したことがある人の中には、以前の事業所でのやり方にこだわり、それをまわりにも押し付けることで同僚とトラブルになるような人もいた。新しい職場のやり方に慣れていく（学んでいく）姿勢を身に付けられるような職業訓練をお願いしたい。
- 継続的に続けていける人物かを見極められるので、職業訓練期間があまり短すぎないほうが安心できる。
- 介護の職業訓練を受講後、介護業界に就職した人の感想（口コミ）などをハローワークに掲示してはどうか。実際に介護業界に就職した経験者の声は、職業訓練を考えている人の「職業訓練後に継続して働いていけるのか」という不安を減らす材料になる。
- 障がい者の作業所がどのような所であるか、ハローワークの求人票では理解しにくいので、実習など実際に肌で感じてもらう機会があれば、「ここが良い」と思って貰えると考えている。
- 介護の現場では、待遇が重要視されている。利用者や家族に対しての待遇が、介護サービスの提供につながる。そのため「待遇マナー」を取り入れて欲しい。
- 職業訓練校の職場見学を取り入れることで、施設での雰囲気やイメージが分かりやすい。スムーズに介護職としての仕事に取り組むことができる。
- 今後も充実した介護職としてキャリアを支援していきたい。



結果・検討課題等

職業訓練受講修了後、介護業界に就職した人の声を周知・広報してはどうかとの意見や実習、待遇マナーなど、訓練カリキュラムへの意見をいただいた。

これら採用企業的心声を求職者、求人者の双方に伝えることで、定員充足率や就職率の向上に結び付くのではないかと。⑪

職業訓練実施機関へ採用企業のニーズを伝えていくことが重要。
⑩

就職支援

Q1. 就職支援で工夫している点は

- ハローワークや福祉人材センターと連携し、職業訓練受講生一人ひとりの希望に応じた求人情報の提供や個人での職場見学の機会を提供している。また、就職フェアの紹介や応募書類の作成支援、面接対策等、実践的なサポートを行い、早期再就職に向けた支援を行っている。
- キャリア・コンサルティングが大切だと考え、職業訓練受講生一人ひとりの職業的適性や希望、就職活動の進捗状況を確認しながら、受講生に助言と支援を行っている。個別面談により不安や課題を共有し、就職に向けた具体的な行動計画の策定を支援している。
- 求人票について、個人の意向に合わせて、キャリア・コンサルティング時に提示している。どの情報ツールを使用するかや求人の探し方についても、各自と相談のうえ決定している。
- 職業訓練受講生それぞれの性格や特性を考慮したうえで、就職先候補の情報提供を行っている。週間ごとに新着の求人を教室に置くようにしている。教室に置いてある求人票を見るだけで、意欲が違ふ。
- キャリア・コンサルティングの充実を図っており、現在は外来のコンサルタントに担当して貰っている。予備校でチューター、大学で就職担当をされていた経験豊富な方である。しばらくはこの体制で、担当者と情報交換を密にし、職業訓練受講生に寄り添ったコンサルティングに努める。



結果・検討課題等

キャリア・コンサルティングをはじめとする就職支援に力を入れている状況が見られた。

職業訓練実施機関が行っている支援内容をハローワーク職員が理解する機会を今後も確保し、連携した就職支援に結びつけることが重要である。
⑫

カリキュラム

Q2. 訓練カリキュラムで工夫している点は

- 介護現場を想定したロールプレイや実技演習を重視し、実践力を高める工夫をしている。また、個々の理解度に応じた丁寧な指導とフォローアップを行い、未経験者でも安心して学べる環境作りに努めている。
- 基本は資格の必須科目を行うが、どの施設で働いても重要となる演習科目については時間数を増やしたり、資格取得に必須の科目でなくても、入社してから必要となる知識や技術については適宜、科目として取り組む。
- 実技やグループワーク時の組み合わせでは、各人の性格や特性を配慮して決めている。
- 地域の事業所や福祉施設と連携し、現場で求められる知識や技能を把握したうえで、求人ニーズに即した職業訓練内容の構築に努めている。実務に直結したカリキュラムにより、即戦力となる人材の育成を目指している。



結果・検討課題等

職業訓練実施機関それぞれでカリキュラムを工夫し、自校の特徴を出すよう取り組んでいる。

職業訓練実施機関が行っている職業訓練内容や特徴をハローワーク職員が知る機会を今後も確保し、求職者との相談に活かすことにより、適切な受講あっせん、職業訓練受講者の確保に結びつけることが重要である。^⑬

連携・要望

Q3. ハローワーク等との連携や要望する点は

- 各ハローワークを訪問し、職業訓練内容や申込時の注意点を丁寧に説明することで、職業訓練への理解と内容との相違が生じないように努めている。また、必要に応じて少人数でも開講可能であることを伝え、職業訓練受講希望者の不安軽減と応募促進に繋げている。
- 少人数での申込となった場合でも、可能な限り職業訓練を開講したいと考えている。特に1～3名程度の申込であっても、職業訓練運営の条件が一定程度緩和されることで、定員に満たない場合でも開講が可能となる仕組みが整えば、より柔軟な対応ができ、職業訓練受講希望者の機会損失を防ぐことができると考える。今後の制度改善に繋がることを期待する。



結果・検討課題等

ハローワークと職業訓練実施機関との連携が受講者の確保、職業訓練受講中、就職支援の各段階において重要である。^⑭

今後も情報の共有、職業訓練コースの内容、職業訓練実施機関の支援内容等の取組を知り、コミュニケーションを図る機会の確保が重要。^⑮

ヒアリング結果を踏まえた今後の対応について ①

ヒアリング結果を踏まえて、今後、以下のような取り組みを行う予定。

- ①ハローワークにおける適切な職業訓練コースへのあっせんの強化を図る必要がある。
- ②今後も職業訓練実施機関が行っている支援内容をハローワーク職員が理解する機会を確保し、連携した就職支援に結びつけることが重要である。
- ③今後も職業訓練実施機関が行っている職業訓練内容や特徴をハローワーク職員が知る機会を確保し、求職者との相談に活かすことにより、適切な受講あっせん、職業訓練受講者の確保に結びつけることが重要である。
- ④ハローワークと職業訓練実施機関の連携が、各段階で重要。
- ⑤情報の共有、職業訓練コースの内容、職業訓練実施機関の支援内容等の取り組みを知り、コミュニケーションを図る機会の確保が重要。



職業訓練内容、職業訓練実施機関の支援内容等をハローワーク職員が理解する機会を確保するため、見学会、意見交換会等を引き続き実施。

- ②職業訓練受講を必要とする潜在的な求職者が存在するため、ハローワークを利用していない層にも幅広く制度周知を行う必要がある。
- ④職業訓練修了者の声を求職者に伝えていくことにより、定員充足率の更なる向上につながるのではないかと。
- ⑤職業訓練修了者の声を求職者に伝えていくことにより、定員充足率の更なる向上及び再就職促進、職場定着につながるのではないかと。
- ⑥職業訓練受講中の各種支援制度についても、引き続き周知していく必要がある。
- ⑨評価している点も含め採用企業の声を求職者、求人者の双方に伝えることで、定員充足率や就職率の向上に結び付くのではないかと。



ハローワーク利用者と併せて、ハローワークを利用していない層を対象とした周知・広報を引き続き実施。

ヒアリング結果を踏まえた今後の対応について ②

ヒアリング結果を踏まえて、今後、以下のような取り組みを行う予定。

③引き続きハローワークにおける就職支援の強化を図ることが必要。



引き続き職業訓練実施機関との連携の強化。

③引き続きハローワークにおける就職支援の強化を図ることが必要。

⑧職業訓練について、幅広い企業に認知してもらうことが必要。

⑨評価している点も含め採用企業的心声を求職者、求人者の双方に伝えることで、定員充足率や就職率の向上に結び付くのではないかな。



訓練修了生歓迎求人確保、就職支援・求人充足支援につなげるため、企業への周知を引き続き実施。

⑪採用企業的心声を求職者、求人者の双方に伝えることで、定員充足率や就職率の向上に結び付くのではないかな。

⑦職業訓練修了者の希望等を職業訓練実施機関へ伝えることで、カリキュラムの更なる充実を図ることができる。

⑩訓練実施機関へ採用企業のニーズを伝えていくことが必要。



引き続き奈良県、機構奈良支部等による職業訓練実施機関への助言・情報提供の実施。

⑪採用企業的心声を求職者、求人者の双方に伝えることで、定員充足率や就職率の向上に結び付くのではないかな。



採用企業が評価していることについて、ハローワークを利用していない層も含めた求職者への周知を引き続き実施。

⑭ハローワークと職業訓練実施機関の連携が、各段階で重要。

⑮情報の共有、職業訓練コースの内容、職業訓練実施機関の支援内容等の取り組みを知り、コミュニケーションを図る機会の確保が重要。



ハローワーク間で、訓練実施機関との連携状況や事例の共有を実施。